

あなたと町を結ぶ情報紙

広報 しんち

8

1997. No.314



楽しいなー!
お父さんといつしょの夏休み。

(釣師浜海水浴場にて)

RIVER

男の半数「早く結婚したい」女の半数「成り行きまかせ」

みんな自分の理想の相手との出会いを求めている。

真夏！「夏は恋の季節」とはいいきれないが、それでもどこかで新しい出会いやちょっととしたドラマを若い男女は期待してしまいます。

「出会いに恵まれないから」とか「いまは恋愛より仕事や同姓の友達が大切」というあなた。恋のきっかけはいつ訪れてくるかわかりません。自分がもう少し積極的にこの夏を過ごしてみませんか。「変わらなきやも変わらなきや」のイチロー選手ではありますねんが、積極的なあなたに、もしかすると去年の夏と違う夏が訪れるかもしれません…。

今月の特集記事はこのほどまとった「結婚に関するアンケート調査」結果です。町内には、少し古い資料ですが、平成7年3月現在で20歳から44歳までの独身男女が約824人います。

このアンケートは、町結婚相談協力員の協力を得て25歳から44歳までの独身男女約4百人を抽出し、実施したものです。回答は総数47通、うち2通は男女の別、年令の別が分からず、45通について分析を行いました。総数から考えて今回のアンケート結果が町内未婚者全体の考え方を受け止めることはできないにしても、おおよその傾向は推察できると思われます。

Q1 アンケートを実施することについてどう思いますか？

ア 出会いの場が少ないから必要と思う
イ 個人の問題、触れられたくないの
ウ その他

(注) 男性については、各年令層とも必要とするものが多く76%を占めたが、女性については、25～29歳、30～34歳の合計で、必要が81%を占めた。

夏！素敵な恋しよう

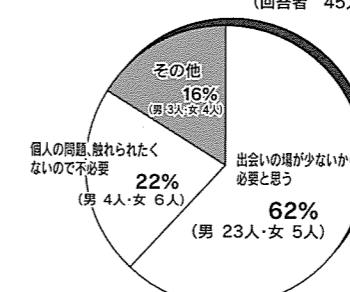


独身者の実態 つむぎぽりに

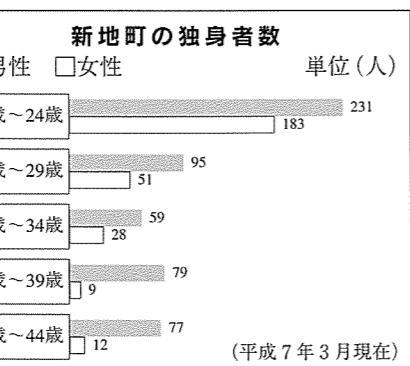


▲ドキドキしたい、見つめるだけで

Q1 アンケートを実施することについてどう思いますか？
(回答者 45人)



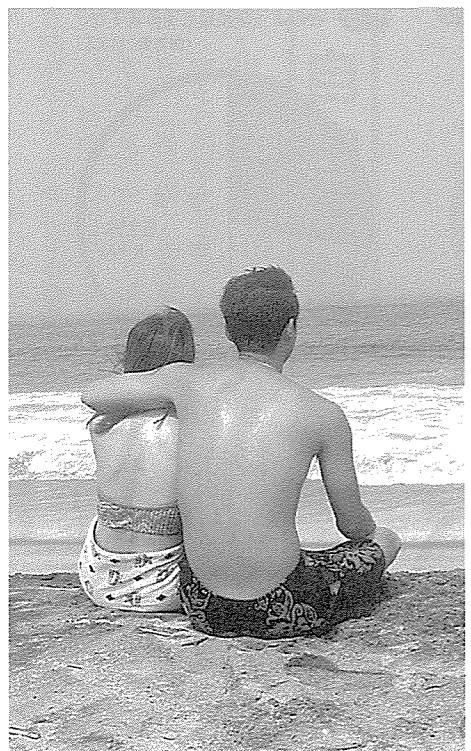
Q3 どのような結婚を望みますか？



●回答者の年令

年代別	男	女	計
25～29歳	9人	9人	18人
30～34歳	8人	2人	10人
35～39歳	5人	1人	6人
40～44歳	8人	3人	11人
計	30人	15人	45人

アンケート調査



Q2 あなたの結婚についての考えは？

考え方	男	女
早く結婚したい	16人	2人
急がない	1人	5人
成り行きまかせ	12人	7人
その他	0人	0人

(注) 男性は25～29歳、30～34歳、40～44歳について早く結婚したい

Q3 どのような結婚を望みますか？

結婚方法	男	女
成り行きまかせ	42%	(男 12人・女 7人)
早く結婚したい	40%	(男 16人・女 2人)
急がない	18%	(男 4人・女 5人)
結婚しない	5%	(男 1人・女 1人)

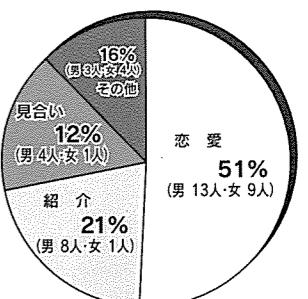
(注) 見合いと紹介両方に印をつけた人で、どちらでも成り行きでと記載した人もいた。男性は25～29歳、30～34歳については恋愛が70%を占めた。反

る。女性の場合は、25～29歳について恋愛が77%、見合い・紹介は0%、その他23%、30～34歳では恋愛、見合い・紹介の合計、その他が33%ずつになつてい

アンケート調査

アンケート結果を今後のイベントに反映!!

Q3 どのような結婚を望みますか? (回答者 43人)



るが 66%、積極的に参加するは 0%、仕事優先が 13%、参加したくないが 13% あつた。

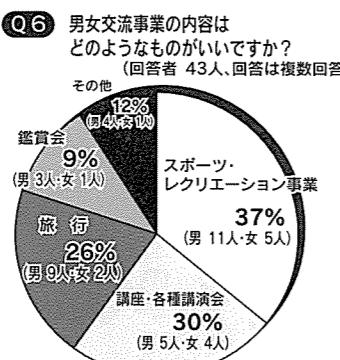
Q4 男女交流の場に参加しますか?

ア 積極的に参加する	男 5人	女 0人
イ 内容によって参加する	男 19人	女 10人
ウ 仕事優先で参加する	男 4人	女 1人
エ とにかく参加したくない	男 1人	女 2人

オ その他 男 1人 女 2人
(注) 男性は、内容によって参加するが各層とも多く合計で 63%、積極的に参加するが合計で 16%、仕事優先は 30~34歳と 35~39歳にあり合計の 14% を占めた。
女性は、内容によって参加す



Q6 男女交流事業の内容はどうなものがいいですか?



▲ 公民館主催の青年学級「夢冒険」はたのしさが

いっぱい

Q5 Q4でア・イ・ウに○をつけられた方におたずねします。何を期待しましたか?

ア とにかく参加して広く交流を図りたい	男 8人	女 2人
イ 結婚相談員が相談されるのを待つていてはだめ、アンケートをとるだけでは意味がないと考える。その結果を行動起こすことが重要。結婚相談員は名ばかりのが現実で残念。結婚相談事業に期待しているので継続して何回も事業を行ってもらいたい。	男 9人	女 0人
ウ イベントではグループで参加する人が多く、真面目に結婚を考えて1人で参加した自分はつまらなかつた。結婚を前提とした交流を考えて欲しい。若い人が好き勝手に騒いで、その場の雰囲気が悪くなる。また、世話役とか知っている人が多いと恥ずかしくて参加できない。	男 9人	女 5人
エ ○ 町でアンケートを出すのはおかしい。結婚相談協員が独身者の考え方、結婚したい者の要求など具体的に調査して条件が合えば相談所で援助をすればよい。	男 2人	女 3人
オ ○ 30~34歳 女性 年令に反比例して結婚に消極的である。	男 9人	女 0人

ア とにかく参加して広く交流を図りたい 男 8人 女 2人
(注) 男性は、結婚を積極的に期待するものが 32%、友人と一緒に参加するので特に期待するものが 45%、とにかく参加して交流を図りたいが 18%、結婚を積極的に期待するものが 0%と男性と対照的に考えても 0%と男性と対照的に考えても 0%と男性と対照的に

考へてが 32%、友人と一緒に参加するので特に期待するものが 45%、とにかく参加して交流を図りたいが 18%、結婚を積極的に期待するものが 0%と男性と対照的に考えても 0%と男性と対照的に考えても 0%と男性と対照的に

としています。



▲ 出会いがいっぱい。昨年12月に開かれたカクテルパーティー

自由意見

特集・結婚アンケート調査から
自身の結婚観を考える

25~29歳 女性 ○ 親との同居を望まない、性格が良く人格の個々を尊重してくれる人が見つかるまでは結婚しない。結婚して苦労するのは意味がない、幸せになるのが当然だから、たくさんの人に出会

30~34歳 女性 ○ イベントやふれあいの場を

30~34歳 女性 ○ とにかく参加して広く交流を図りたい 男 8人 女 2人
(注) 男性は、結婚を積極的に期待するものが 32%、友人と一緒に参加するので特に期待するものが 45%、とにかく参加して交流を図りたいが 18%、結婚を積極的に期待するものが 0%と男性と対照的に

気軽にイベントに参加ください

町ではこれらの調査結果を踏まえ、イベントの内容を検討するほか、加藤邦昭結婚相談所長を中心各地域の結婚相談協員と連絡を密にして、縁結びのための積極的な活動を行うこと

40~44歳 男性 ○ 独身者の状況を知りたい。町の相談所に行く勇気がないのでも、交流事業を多く実施して欲しい。

35~39歳 男性 ○ 町内だけのイベントを実施しても無意味だと思う。あまりにも世間がせますざる。

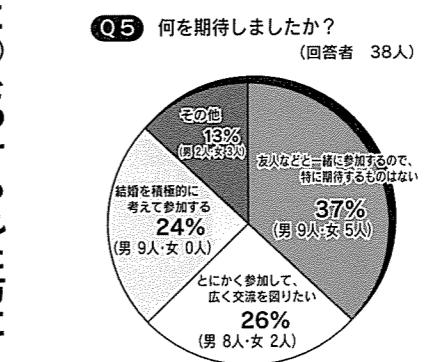
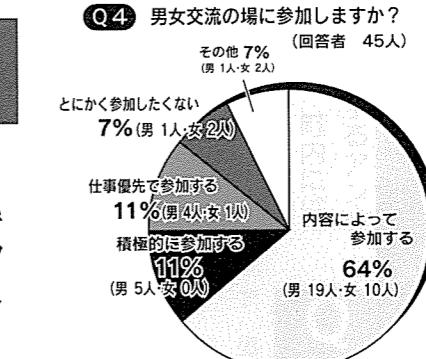
35~39歳 男性 ○ 独身者の状況を知りたい。町の相談所に行く勇気がないのでも、交流事業を多く実施して欲しい。

● 独身者の方が気軽に参加できるイベントを企画し、多くの出会い、ふれあいの場ができるだけ提供していますので、積極的な参加をお願いします。このアンケート調査結果についての問い合わせは、新地公民館

女性からのメッセージ

● 共通の趣味を見つけてほしいなどにも言えることです

(4)



Q6 男女交流事業の内容はどうなものがいいですか? (回答者 43人、回答は複数回答)

ア スポーツ・レクリエーション事業 男 11人 女 5人
イ 旅行 男 9人 女 2人
ウ 鑑賞会 男 3人 女 1人
エ 講座・各種講演会 男 5人 女 4人
オ その他 男 4人 女 1人
(注) 2つ以上の○は、男性 6人・女 2人、印なしは男性 1人・女 1人、印なしは男性 1人・女 1人、男性はスポーツ・レクリエーション事業が最も多く 11人、次いで旅行が 9人女性は、スポーツ・レクリエーション事業が最も多く 10人で、鑑賞会、講座・各種講演会のみとなつてている。

Q3 どのような結婚を望みますか? (回答者 43人)

オ その他 男 1人 女 2人
(注) 男性は、内容によって参加するが各層とも多く合計で 63%、積極的に参加するが合計で 16%、仕事優先は 30~34歳と 35~39歳にあり合計の 14% を占めた。

Q4 男女交流の場に参加しますか? (回答者 45人)

オ その他 男 1人 女 2人
(注) 男性は、内容によって参加するが各層とも多く合計で 63%、積極的に参加するが合計で 16%、仕事優先は 30~34歳と 35~39歳にあり合計の 14% を占めた。

Q5 何を期待しましたか? (回答者 38人)

オ その他 男 1人 女 2人
(注) 男性は、結婚を積極的に期待するものが 32%、友人と一緒に参加するので特に期待するものが 45%、とにかく参加して交流を図りたいが 18%、結婚を積極的に期待するものが 0%と男性と対照的に

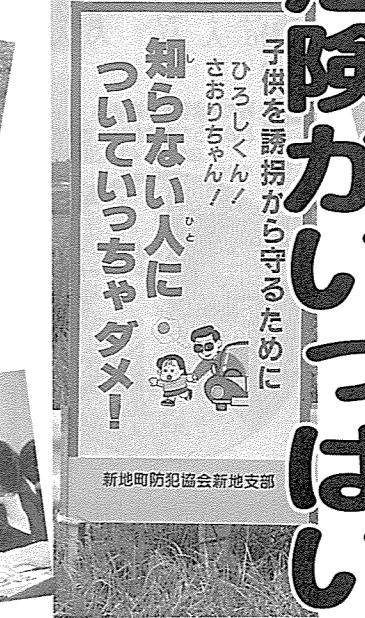
考へてが 32%、友人と一緒に参加するので特に期待するものが 45%、とにかく参加して交流を図りたいが 18%、結婚を積極的に期待するものが 0%と男性と対照的に

としています。

(5) H9.8.5.

楽しい夏休み…

でも、子供たちの周りに危険がいっぱい！



予供を誘拐から守るために
ひらしきん!
おおりちゃん!

知らない人に・
ついていうちゃダメ!

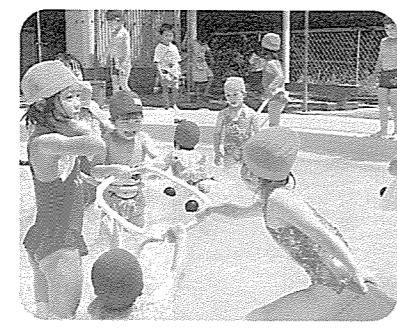
新地町防犯協会新地支部



事件に注意

危険が迫った ら大声出して逃げましょう

『子ども110番の家』設置



▲帰宅はみんなで早めに！

警察に連絡し、すぐ手配しましたが、不審者はまだ分かっていません（七月二十八日現在）。

一、声をかけられても断つた
二、複数で歩いても断つた

警察に連絡し、すぐ手配しましたが、不審者はまだ分かっていません（七月二十八日現在）。

だものと考えられます。この二つのことが、被害を防いだものと考えられます。

不審者と思われる人物は、車、自転車などで児童・生徒の登下校時間や一人で歩いている時に現れます。中には「お母さんがケガしたからすぐ車に乗るようになります。」などと言葉巧みに声をかけ、

無理やり車に連れ込もうとしたります。

こういう事件が続くと、残念なことがあります子供たちも親も過敏になってしまいます。しかし、夏休み期間中は子供が屋外でいる機会が多くなりますから、警戒するにこしたことはありません。夜遅い帰宅には特に注意が必要です。

どんな小さなことでも警察に届けてください。その通報が大事にいたらない早道です。

学校では

注意を呼びかけ

学校では児童・生徒からの通報で直ちに調査し、警察、教育委員会、近隣学校に連絡。保護者にも緊急のチラシを配り、注意を呼びかけています。

また、児童・生徒の登下校の指導を徹底、「見知らぬ人の誘いには絶対のらない」「見知らぬ人の車には絶対のらない」など、いろいろなケースを想定しながら、すぐに保護者、学校、警察に知らせるよう指導をしています。

保護者には日常のしつけとして、これらを話題にし、子供の動向の把握など、事件に巻き込まれないよう家庭でも指導をお願いしていることです。

家庭では

地域ぐるみで関心を

学校から緊急のチラシを受けた保護者たちは「万一のことがあっては大変」と改めて子供をとりまく環境を認識しました。

福田小のPTA会長の加藤泉さんは、「地域で話し合ったり、子供の遊び場や危険個所を把握し、地域ぐるみで関心をもち、できる範囲で日常の被害防止対策をしています」と話していました。

これを機会に、親子で通学路や遊び場を再チェックしてみるのも防止策の一つでしょう。

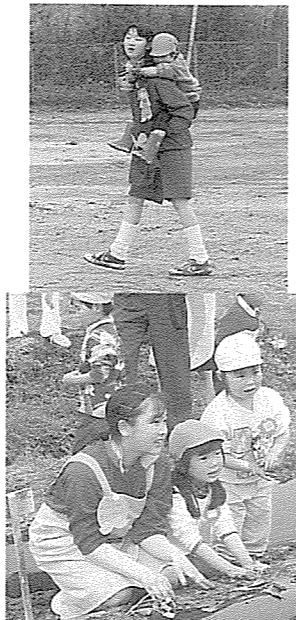
警察では

何かあったらすぐに警察へ110番

相馬署では事件の未然防止を目的とした警戒パトロールを行っています。

不審者に声をかけられ、連れ去られそうになったら、近くの家からでも、すぐ警察に110番してください。早期通報が不審者を探すうえで一番大切なことです。

1. 自動車などを利用している場合は「ナンバー」をメモしてください
2. 自動車(自転車)などの特徴(色、車種等)を覚えておいてください
3. 犯人の顔などの特徴を覚えていてください
4. すぐ逃げるよう指導してください
5. すぐ届けてください(警察、学校へ)



不審者の「声かけ

危険が迫った ら大声出して逃げましょう

相馬署と防犯協会ではPTAや地域の方の協力を得て、約百軒に「子ども110番の家」を設置しました。「子ども110番の家」は子供たちが不審者に出会った時、助けを求めるように、だれかが常に在住している商店や住宅などが対象、子供が駆け込んで来た時の保護や警察に対する110番通報等を行う地域のボランティアの家です。

委嘱された家には「子ども110番の家」と書かれた黄色いプレートを掲示しています。

今、少子化社会。日本の将

来を担う大切な子供たちが「声かけ事件」など犯罪や交通事故に巻き込まれないよう地域一丸となって防犯無事故に取り組みましょう。

▶町内約百軒に「子ども110番のプレート」掲示



町内での事例

で帰宅途中の女の子一人が車に乗った二十代の男二人に「たまたまほしい?」と声をかけられ、「知らない」と答えたなら「誘拐するぞ」と脅かされました。

男たちはそのまま走り去ったというケースがありました。保護者から学校に電話があり、すぐ

が発生するなど、子供たちが被害者となる誘拐や殺人事件に対し車に誘つたり、変質者が現れたりと新聞紙上に取り上げられ、父母や学校関係者らを心配させました。このような事件はひとつ間違えば凶悪犯罪に発展する恐れがあり、学校だけの問題ではなく、地域の問題として捉えなければなりません。今回は、夏休みに入り「声かけ事件」について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

第1回町内施設めぐり&懇談会

見て、聞いて、触れて、実際に

町づくり体感。百聞は一見にしかず

実際に

大戸浜地区でも
施設めぐり

「町づくりは集落づくりから」と言われますが、第十行政区(大戸浜地区・門馬義一区長)では同地区の九年度事業の一つとして町内施設めぐりを計画、七月二十三日に観海堂、リサイクルセンター、いっぱい清水、グリーンファーム、新地発電所、わくランドの各施設を見学しました。

午後からはわくランドの集会で荒町長といっしょに昼食をとった後懇談が行われ、参加者から「新地城や駒ヶ嶺城などの整備を進めて町の名所にしてほしい」「駒ヶ嶺小学校の建設はどうなつてているのか」などの質問や要望が出されました。

参加者は「それぞれの施設の内容がよく分かり参考になった」「この問題は将来とも大きな課題であり、実際に見たことで意識が違ってきた」などの感想が聞かれました。

次回は8月13日帰省客大歓迎

次回の「施設めぐり&懇談会」は八月十三日に行います。帰省客の方、大歓迎です。ふるさとの移り変わりを実感してみませんか。席にまだ余裕がありますのでお早めにお申込みください。定員は三十五人。

◎企画振興課(☎内線35)



▲缶のリサイクル施設を見学



▶特養ホームの入浴
施設を見学

町民号の席にまだ余裕があります。定員になり次第締め切りますので、皆さんお早めにお申込みください。

●席にまだ余裕があります

●参加者募集

●町民号

今週はJRで行く「青森三内丸山遺跡、十和田湖、男鹿半島の旅」です。団体旅行や家族旅行などで、皆さんお誘い合わせのうえご参加ください。

▼日時 10月22日(水)～24日(金)
(2泊3日)

●申し込み 企画振興課

(☎内線35)



▲グリーンファームで説明を受ける大戸浜地区の皆さん

7月20日 国民の祝日
「海の日」

頑張った人にマル



▲県大会で活躍した尚英中選手団

第40回福島県中学体育大会総合体育大会・水泳大会・陸上大会。

◎団体の部
・優勝 柔道女子(東北大会出場)
卓球男子(東北大会出場)
野球
柔道男子、バレー男子
◎個人の部
・優勝 柔道女子52kg級 林絵利子(東北大会、全国大会出場)
柔道女子48kg級 横田雅子(東北大会出場)・柔道女子56kg級 岡村美波(東北大会出場)・柔道女子56kg級超級 楠口香織(東北大会出場)
陸上110mH 荒 毅治(東北大会出場)
卓球男子シングルス 小野忠正(東北大会出場)・柔道女子48kg級 加藤悦子・柔道女子52kg級 森 沙耶花
800m自由形 中志貴綱
◎県大会優勝団体、個人入賞者は、8月8日～10日に青森県で開催される東北大会へ、柔道女子の林 絵利子さんは、8月20日～24日に愛媛県で開催される全国大会へ出場。

告知

8月8日(金)～12日(火)
ふれあい絵画展

農村環境改善センター



▲砂浜には流木も打ち寄せられていた



▲多くの中学生も参加した

ごみを減らして
毎年少しづつ
いこう

みました。
約一時間三十分钟にわたっての
作業を終えた皆さんにジュース
が配られ一息。

「おはよう。今日から夏休みだね、楽しいね」「夏友、早めにかたづけようね」。七月二十日は国民の祝日「海の日」。梅雨も終わり晴天に恵まれた朝、「海の日」を記念して「相双の海」ウォーキングクリーニング作戦が釣師浜海水浴場周辺で行われ、夏休みに入った子供からお年寄りまで約六百人の町民が参加しました。

四百五十個用意したキャンペ

ーン用帽子はたちまちなくなり、後の方にはタオルや軍手などが配布されました。ゴミ袋を手に、「みんなが投げなければ、ひどい思いをして捨てる必要もないのにね!」。そんな話を交わしながら、釣師浜海水浴場周辺や埠浜、大戸浜の舞子浜などに捨てられたごみを黙々と拾い集め、砂に穴を掘り埋めたり、焼却できるごみは燃やしたり、カバン・ビン類などは役場に運び込

最初から投げなければ、捨てる必要もないのにね。

「相双の海」
ウォーク&クリーンアップ作戦

クリーン作戦を終えた後、こ

の日は海開き最初の日曜日とあって県内外から大勢の海水浴客が釣師浜海水浴場に訪れます。遠くから来た人達は、青く澄んだ海とごみのないきれいな砂浜を見て、きっと町の印象をよく思つたことでしょう。

皆さん、朝早くからご苦労様でした。この体験を今後に生かし、「ごみのないきれいな町・しんち」にしましょう。

The Photo Scramble

TUF ふるさとCM大賞
新地町作品が優秀賞



▲7月14日の表彰式で引田テレピュ福島社長(右)から賞状を受ける佐藤喜昭企画振興課長



「図書館のオープンを機に町の文化活動を広げていきたい」とサンシャイン書店が七月十八日から二十日まで、図書館視聴覚室で「一枚の絵画展」を開きました。会場には百三十点の絵が展示され、町内外から約三百五十人が訪れ、日本を代表する作家たちの作品をじっくりと鑑賞していました。

初日にはオープセンセモニーが行われ席上、加藤房子社長から荒町長に絵画が寄贈されました。寄贈された作品は保原町出身で一水会員、日展会友の県展審査員を務める洋画家・鈴木正紀さんの油絵「鹿狼山(夏)」(8号)で、図書館に飾られています。

▶加藤房子社長が荒町長に油絵

「鹿狼山(夏)」を贈る

「はやま湖」で 森と湖まつり'97

「森と湖に親しむ旬間」が七月二十一日から三十一日までの間、全国で様々なイベントが行われました。

相馬地域開発の水瓶・真野ダム「はやま湖」では真野ダムに親しむ運営委員会が主催、新地町などが後援して、七月二十六、七日の二日間、「はやま湖」森と湖まつり'97が開かれました。

全長五百二十六メートルの湖をモーターボートで遊覧、ボートによる乗馬、丸太切り競争、大倉神楽などの郷土芸能や焼き肉ガーデン、食べ物広場など人気を博しました。

製作に当たった伏見春雄総務課主幹(当時、企画振興課主幹)は「短時間での作業でもあり、一分間に何を凝縮して新地町の良さを出すかに苦心しました」と話していました。

入賞作品は、八月十二日前十時二十分から放送される「マル得ふくしま生放送」で紹介されることとなっています。



▶人気を集めたボート遊覧



町のPRに一役
純米吟醸酒「鹿狼山」
好評発売中!

町内産米の「ひとめぼれ」と、町の名水「いっぱい清水」を原料とした純米吟醸酒「鹿狼山」が今年も好評を博し順調な売れ行きです。

いちじくワインなど町の特産品の開発を進めてきた町特產品振興協議会(会長、鈴木孝町商工会長)が取り組んで二年目。今年は六月十一日から町内の酒小売店で販売しています。一・八㍑が二千六百二十五円、七百二十㎖が千四百六十円、三百㎖が五百八十五円、三百㎖(五本入りセット)が二千九百五十円。今年は昨年以上の出来、ちよと辛口のスッキリ味に仕上がっていいるとか。ぜひ、お試しお。

▶今年も好評を博し、順調な売れ行き「鹿狼山」



▲藤崎劇団が「光はいすこに」を上演

「老人と婦人が互いに話し合い、相互の理解を深め、老人の生きがいと地域社会とのふれあいを進めよう」と、駒ヶ嶺地区の老人と婦人の交流会が六月二十九日、駒ヶ嶺公民館で開かれ約百八十人が参加し、交流を深めました。交流会では踊り、歌、ダンス、カラオケ、地酒音頭などのアトラクションを楽しみました。おなじみ藤崎劇団も出演、戊辰戦争を題材にした「光はいすこに」を上演、お年寄りたちに爆笑あり、ちよっぴり涙ありの手作り劇を披露しました。

また当日、福田地区でも世代間交流会が行われ、約百四十人が出席し、悪質商法の講話やアトラクションを楽しみました。



▲遠藤陶氏が父・新の思い出を語る

▶斎藤洋亘さんが「戊辰戦争について」と題して記念講演

男女共同参画社会をめざして「あらゆる分野へのエンパワーメント(能力)の高まりを」とテーマに相馬地方婦人団体リーダ育成研修会が七月二十日、農村環境改善センターで開かれ、相馬地方婦人団体連合会員ら約二百人が参加しました。

国内外の変ばう著しい現代社会の中で婦人団体が果たすべき役割を再認識し、後継者やリーダーを育成していくこうと相馬地方持ち回りで開催しているものです。

研修会では「戊辰戦争について」と題して斎藤洋亘さん(講演)、続いて藤崎劇団が戊辰戦争を題材に「光はいすこに」を上演、会場を沸かせました。

会場では婦人会員による地場産品の販売なども行われ、新地町をビーアールしました。

「男女共同参画社会をめざして『あらゆる分野へのエンパワーメント(能力)の高まりを』をテーマに相馬地方婦人団体リーダ育成研修会が七月二十日、農村環境改善センターで開かれ、相馬地方婦人団体連合会員ら約二百人が参加しました。

国内外の変ばう著しい現代社会の中で婦人団体が果たすべき役割を再認識し、後継者やリーダーを育成していくこうと相馬地方持ち回りで開催しているものです。

研修会では「戊辰戦争について」と題して斎藤洋亘さん(講演)、続いて藤崎劇団が戊辰戦争を題材に「光はいすこに」を上演、会場を沸かせました。

会場では婦人会員による地場産品の販売なども行われ、新地町をビーアールしました。

女性が変われば町は変わる! 相馬地方婦人団体 リーダー育成研修会

あなたの周りの身近な話題をお寄せください。

サ・フォト・スクランブル

新地クラブ、婦人バレーボール県大会で優勝

第十七回KFB杯福島県家庭婦人バレーボール大会が七月五、六日に郡山市西部第二体育館で行われ、「新地クラブ」(監督、斎藤千鶴子)が、決勝戦で瀬ノ上クラブを二ー一で下し、見事優勝しました。同バレーボール大会は二十五歳以上のママさんで構成するチームが参加資格で、同チームが東北大会に出場するのは四年ぶり。七月十四日、荒町長に喜びの報告をしました。新地クラブは十月十一日から山形県で行われる東北大会に向けて練習を重ねています。



▲荒町長に喜びの優勝を報告した新地クラブ

当日は新地町からも広報やチラシなどでイベントを知った親子連れや県内の行楽客などにぎわい、参加者は森と湖に囲まれた自然の中で、心身をリフレッシュしていました。

来年もはやま湖を会場にこの時期イベントを開催す

▶人気を集めたボート遊覧

散歩道



町は花の香に包まれて

太陽がさんざんと照りつける夏。町内のあるあちらこちらで、ペチュニア、マリーゴールド、サルビアの「夏花」が競うように咲き誇っています。

「花と緑で心をつなぐ明るい社会環境」をめざし、「花いっぱい運動」がスタートしたのは昭和六十二年の春。町内のいたるところを花でいっぱいにしたい。そして今年で十一年目。多くのボランティアの皆さんに支えられて花たちはいきいきと咲き、町は花の香に包まれてきました。

観光向けというよりも、自分たちの生活の中に潤いを与えてくれるものであります。そして、ある時期に一斉に開花する花もいいけれど、長い間楽しめる花も違う趣がある。白、ピンク、赤、黄色の花をつけるペチュニア、マリーゴールド、サルビアはそんな花です。苗を作ってくれる人がいて、植えてくれる人がいて、水をかけてくれる人がいて、花は育つ。そして、その花がその町の顔となり、道行く人の心を和ませてくれます。今を美しく咲き誇る花も日々、その姿を変えていきます。もう一度、ゆっくり見てはいかがですか。（写真は喫茶店らんど前の花壇）

こちら
編集室

▼若いころ夏に友人たちとよく旅行に出かけました。日本海に沈む真っ赤な夕日や山頂から眺める雄大な自然に感動し、車の中で音楽を聴き、電車の中で文庫本を読み、知らない街を闊歩し、酒を飲んで夜を明かしました。その友人たちと今では年に数えるほどしか会う機会がないが、それでも会うと昔の自分たちに帰ったようなやすらぎを感じます。▼八月十五日、お盆成人式。百六十二人が巣立つ。二十代は社会人として就職、結婚など人生を左右する大きな選択が迫られる年代である。戸惑うことも多いと思う。しかし人生は長い。あせらず、よき友を得て、よく遊び、よく学んでほしい。成人式はその確認の場である。二度目の成人式を終えた小生は思う。〔前〕●去年の夏私は、海の家の手伝いをしていましたので毎朝海水浴場の清掃をしていました。砂浜に捨てられているゴミの多くは空き缶とタバコの吸い殻。なかには吸い殻をきちんと缶に入れて捨ててあるものもある。「すこしは美化意識のある人が捨てたのかな」そう思いながらゴミを拾い集めていました。●先日町内施設巡りで空き缶のリサイクルセンターを訪れました。「吸い殻の入った空き缶は、リサイクル処理の時とても困る」そうです。〔佐〕

人の動き

- 人口／9,097人（-8人）
男／4,460人（-6人）
女／4,637人（-2人）
- 世帯数／2,368世帯（-5世帯）
7月1日現在（）は前月比

今月の納税

- | | |
|----------|------|
| ●町県民税 | 第2期分 |
| ●国民健康保険税 | 第2期分 |
| ●国民年金 | 8月分 |



再生紙使用